

三條北ロータリークラブ週報

No. 35



ゴードン R. マッキナリー RI会長「世界に希望を生み出そう」
 第2560地区：米山忠俊ガバナー「ロータリーの心で友情を深めよう」
 三條北 RC：森 宏 会長「GLOBALに活動しよう」



会長：森 宏 幹事：安藤 幸 SAA：福岡 信行

●例会日：火曜日 12:30～13:30 ●例会場：三條ロイヤルホテル Tel 0256-34-8111

- ◆本日の行事：「水と衛生月間」
- ◆本日の出席：54名中31名
- ◆先々回の出席率：54名中35名 64.81%
(前年同期 75.47%)
- ◆本日のゲスト
三條市上下水道課 課長 小山正幸様
三條市上下水道課 玉村優汰様
- ◆本日のビジター(敬称略)：
第4分区分ガバナー補佐 小出和子様(三條東RC)
ガバナー補佐スタッフ 栗山正男様(三條東RC)
分水RC50周年実行委員長代理 笠原次巳様
分水RC 杉田和夫様
三條南RC会長エレクト 永桶俊一様
- ◆先週のメイクアップ(敬称略)：
3/23 防減災セミナー 森 宏
- * 本日の配布書類等
 - ・月信 3月号(閲覧)
 - ・週報 No.1746,1747

会長挨拶：森 宏 会長



皆さんこんにちは。

本日は大変大勢のお客様においでいただきまして、ありがとうございました。三條市上下水道課の小山正幸様、後ほど卓話よろしくお願ひ申し上げます。

先週土曜日に2024-25年度ロータリー防減災セミナーが長岡で行われ、昨年に続いて出席してきました。今年は1月1日の能登半島地震がありましたので、その際に米山ガバナーからロータリー地域協働ネットワークセンター長である清水信博さんにすぐに連絡があったりした経緯の、時系列的説明がありました。

このネットワークセンターは、そもそも村上の水害の際、各クラブから時のガバナーに直接電話があり、大変な思いをされたことから、各分区分でガバナー補佐がそれぞれの分区内での被害状況を把握した上で、ガバナーに報告を上げるように組織したそうです。この度の地震の際も、本日まで出席いただいている小出和子ガバナー補佐からすぐにメールが入り、各クラブの被害状況調査がありました。

ネットワークセンター設置の意義について、大事なことはいざ災害が発生したときに住民の皆様からロータリーへの理解を深められるよう、日頃から地域密着型の奉仕活動を行い、顔が見える活動を行い、結果として会員拡大にもつながります、という説明がありました。

幹事報告：齋藤孝之輔 副幹事



- ・米山記念奨学会より、お知らせ
「1992-94年米山奨学生 ラスマダ, センダリウスさん(長岡西 RC・インドネシア出身)が2026年7月から第3410地区のガバナーになる予定とのことです。米山学友4人目のガバナーが第2560地区の学友です。」
- ・地区ローターアクト委員長より、「2023-24年度ローターアクト地区協議会 本登録のご案内」
開催日：5月18日(土)～19日(日) 場所：新潟市アグリパーク
- ・米山梅吉記念館より、「春季例祭のご案内」
日時：4月27日(土)14:00～ 会場：米山梅吉記念館ホール
- ・三條中央ライオンズクラブより、「第43回 8クラブ有志ゴルフ大会のご案内」
日時：6月22日(土)8:30スタート 場所：下田城カントリー倶楽部
懇親会：ジオ・ワールドVIP 開場：18時30分





第4 分区ガバナー補佐 小出和子様、ガバナー補佐スタッフ 栗山正男様(三条東 RC)

皆さまのおかげで事前訪問・公式訪問をつつがなく終わることができ、最後の懇親会の席では、楽しく過ごさせていただきました事が思い出に残っています。

公式訪問では、米山ガバナー、石黒地区幹事、石川副幹事と一緒に各クラブを訪問させていただきまして、色々学ばせていただきました。本当にありがとうございました。



分水ロータリークラブ 50 周年実行委員長代理 笠原次巳様、杉田和夫様

5 月 19 日(日)、分水ロータリークラブ 50 周年式典のご案内に参りました。私ども総勢 32 名ほどですが一生懸命頑張ってますので宜しくお願いしたいと思います。こちらは米山ガバナーもいらっしゃるクラブですので、是非全員登録いただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。



ロータリー財団 BOX

3 月 2 6 日現在累計 4 4 1, 0 0 0 円

- 外山 晴一 君 今日は 52 回目の結婚記念日です。
- 米山 忠俊 君 小出和子第 4 分区ガバナー補佐様、栗山ガバナー補佐スタッフ様、分水 RC 笠原次巳様、杉田様、三条南 RC 永桶俊一様、三条市から小山正幸課長様、玉村様方々のご来会を歓迎します。有り難うございます。
- 森 宏 君 三条市役所上下水道課 小山正幸様、玉村優汰様、本日は宜しくお願い致します。
- 石黒 隆夫 君 三条市建設部上下水道課 小山正幸様、本日はようこそ三条北ロータリークラブへ、よろしくお願い致します。
- 大野 新吉 君 本日のビジター大勢の方々熱烈歓迎致します。去る 13 日~14 日東京銀座クラブメーキャップ他見学をさせて頂き、幹事の野崎さんと参加者皆様様に感謝~感謝!!
- 武田 恒夫 君 三条市役所上下水道課 小山正幸様、本日は宜しく申し上げます。
- 金子太一郎 君 ロータリー財団に協力します。
- 澁岡 茂 君 協力します。



米 山 奨 学 BOX

3 月 2 6 日現在累計 2 3 9, 0 0 0 円

- 外山 晴一 君 今日は 52 回目の結婚記念日です。
- 森 宏 君 三条東 RC 小出和子ガバナー補佐、栗山正男様、ようこそいらっしゃいました。
- 武田 恒夫 君 小山様卓話よろしくお願い致します。三条東 RC 小出様、栗山様、分水 RC 笠原様、杉田様、三条南 RC 永桶様ありがとうございます。
- 落合 益夫 君 BOX に協力。
- 石丸 進 君 小山様、本日は有難うございます。
- 松山 浩仁 君 いつでも蛇口をひねれば美味しい水が出てくる三条市。上下水道課の皆さんに感謝、感謝!
- 星野 義男 君 小出ガバナー補佐に感謝いたします。
- 羽賀 一真 君 本日、大勢のビジターの方々にお越しいただき誠にありがとうございます。



ス マ イ ル BOX

3 月 2 6 日現在累計 7 3 2, 0 0 0 円

- ガバナー補佐 小出和子様 米山年度では大変お世話になり、ありがとうございました。
- 分水ロータリークラブ様 5 月 19 日、50 周年の PR に来ました。よろしくお願い致します。
- 永桶 俊一 様 (三条南 RC) 本日はメーキャップと上下水道課小山課長のお話を聞きにまいりました。よろしくお願い致します。
- 外山 晴一 君 三条市建設部の小山課長、第 4 分区小出ガバナー補佐、栗山ガバナー補佐スタッフ、分水ロータリークラブの笠原さん、杉田さん、三条南ロータリークラブ永桶会長エレクト、ようこそ!



石川 一昭 君 本日の卓話 小山課長様、卓話宜しくお願い致します。第 4 分区小出ガバナー補佐、分水ロータリークラブの皆様、三条南ロータリークラブの皆様、三条東ロータリークラブの皆様、本日はありがとうございます。

森 宏 君 分水 RC 笠原次巳様、杉田和夫様、三条南 RC 会長エレクト 永桶俊一様、ようこそいらっしゃいました。

外山 裕一 君 BOXに協力。

石川 友意 君 市役所 小山課長様の卓話に感謝して!! ロータリークラブの多くのビジターの皆様を歓迎して!!

武田 恒夫 君 3/23 に 403 号線が当社の近くまで開通しました。予想通り大渋滞です。信号の種類を変えて欲しいです。

佐藤 義英 君 今日は多数のお客様ありがとうございます。BOXに協力!!

本間建雄美 君 三条市建設部上下水道課 小山課長様、卓話宜しくお願い致します。楽しみにしてました。

高橋 暢雄 君 おかげさまで長女が 4 月から J R に就職します。子どもの連結切り離しも終わり、私も家で切り離されないよう頑張ります。

本日の行事：「水と衛生月間」

講師紹介：石丸 進 プログラム委員長

3 月は「水と衛生月間」です。本日は三条市上下水道課 課長の小山様より卓話をいただきます。小山様、よろしくお願いいたします。



三条市の「みず」事業

三条市建設部 上下水道課 課長 小山 正幸 様



まずはじめに元日発生しました能登半島地震において、今なお被災されておられる方、そして不自由な生活を余儀なくされておられる方々に対して、心よりお見舞い申し上げますとともに、1 日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今回の災害でも、ライフライン、とりわけ水道水の大切さを改めて感じさせられました。そのため、今回は水道をメインに国が公表している資料とともに、三条市の水道事業の歴史などを交えながらお話をさせていただき、最後に衛生にちなんで、下水道に少し触れてお話をさせていただきます。

私たちは日常生活の中で、飲み水や炊事、洗濯、風呂、水洗トイレなどのほか、飲食店や商業施設などで、たくさんの水を「生活用水」として使っています。ほかにも、工場等による機械部品の洗浄や冷却などのための「工業用水」や、お米をはじめとする各種農作物を育てるための「農業用水」など、様々な目的でたくさんの水が使われています。これらの水は、空から降った雨や雪が源となっています。降水量の総量を体積で表すと、1 年間で約 6,600 億 m^3 となり、琵琶湖の水の体積の 24 倍もの量となります。

数字だけを見てみると、膨大な水があるように思えますが、そのうち約 2,300 億 m^3 (約 3 割) は蒸発により使うことができません。また、残りの約 4,300 億 m^3 は、理論上は私たちが利用できる水ですが、日本の地形は急な場所が多くて河川が短く、さらに梅雨期や台風期に雨が集中して降るため、ほとんどの水は使われることなく海に流れるなどしてしまいます。

私たちが使用できる水は、約 785 億 m^3 であり、

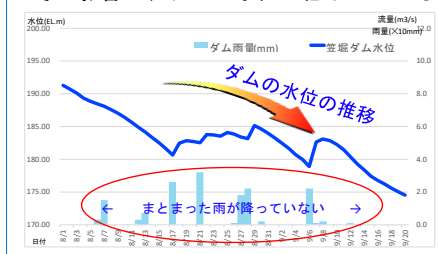
降水量の総量の約 10% に過ぎません。そのため、雨が少ない年では、使うことができる水の量がさらに少なくなり、全国各地でしばしば渇水が起きています。長期間の給水制限や断水のような、深刻な影響を与えた渇水は、昭和 53 年(1978 年)の福岡渇水、平成 6 年(1994 年)の列島渇水などがあります。この渇水は、三条市でも例外ではございません。

昨年の夏は、まとまった雨が降らず、三条市でも渇水に悩まされる年となりました。この写真は、笠堀ダムを写したものです。向かって左が、令和 4 年 8 月 23 日の写真で、左が令和 5 年 8 月 21 日に写した写真です。

令和 4 年度の同じ時期と比較すると、笠堀ダムの貯水率は 3 分の 1 程度



- ・ 8 月以降、まとまった雨が降っていない
- ・ その影響で、ダムの水位が低下している



ご覧いただいておりますように、同じ 8 月の写真にもかかわらず、まとまった雨が降らないことで、ダムの水位が令和 4 年と比べ、とても低いことがわかるかと思います。

このグラフ(下段)でも分かると思いますが、8 月に入ってもまとまった雨が降らず、ダムの水位は低下していきました。このままいくと、ダムは空になり、やがて、水道水の供給にも影響を及ぼす

おそれがありました。(毎日、天気予報とにらめっこしていた記憶が蘇ります)

結果的には、9月末ころからまとまった雨が降ったおかげで、水道水の断水や節水などの給水制限をすることなく済んだものでございます。三条市だけでなく全国的に異状気象が猛威を振るう時代となった今、また「いつなんどき」発生するか分からない渇水については、水道を取り扱う立場として、これからも注視していく必要があると考えております。

こ渇水とは別に、令和5年は、もう1つの災害に見舞われました。それが、令和5年1月に発生した「寒波」です。令和5年1月25日は、最低気温が氷点下5.9℃まで下がり、日中の気温も氷点下1.2℃までしか上がらず、1日を通して非常に冷え込んだ日となりました。水道管は氷点下4℃になると凍結しやすいと言われており、三条市としても、最低気温が氷点下4℃が見込まれる予報の場合は、市のホームページ、メール配信サービス、Xエックス(旧ツイッター)、三条市LINEなど、さまざまなSNSで凍結予防の注意喚起を行っております。しかしながら、1月25日の寒波は、1日中氷点下が続いたこともあり、水道管(主に宅内の引き込み管)の凍結・破裂が相次ぎました。破裂の修理件数は、水道事業者からの聞き取りによると、約2,000件にも及び、水道管の破裂による漏水が増量したことで、浄水場からの供給量も約1.4倍も増量しました。三条管工事業協同組合の努力もあり、破裂か所の修理が進むにつて、10日後には通常の供給量に戻ったところでございます。

是非、天気予報あるいは三条市からの情報を注視していただき、事前の凍結防止対策を徹底していただければと思います。

ここからは、三条市の水道事業について、簡単にご説明させていただきます。

旧三条市においては、当初地下水を利用していましたが、地質の関係で良質な水ではなかったそうです。明治以降、人口が増加したことから多くの水が必要となり、明治26年に水道施設を作ろうとしました。しかし、費用がかかりすぎることから見送られました。その後、人口がどんどん増えたことや町が大きく発展したことにより、飲料水や防火用水での使用のみならず、衛生面からも水道水の普及を市民が求めるようになり、昭和4年に議会の賛成を得て、昭和5年に国から事業認可され、昭和8年に水道水が供用開始いたしました。

大崎浄水場は、この頃作られ、その後、人口増加のため、その度に拡張を繰り返してきました。旧栄町は昭和38年、旧下田村は昭和47年にそれぞれ供用が開始され、以降、拡張を繰り返しながら、平成17年5月の市町村合併を経て現在に至ります。

現在、三条市内の水道水は、3か所の浄水場で水を作り、市内の給水区域に供給しております。この3か所の浄水場のうち、大崎浄水場と遅場浄水場は、三条市が運営しており、残る1か所は三条

地域水道用水供給企業団(一部事務組合)が運営しております。

大崎浄水場は、主に三条地区の嵐北及び嵐南の市街地エリア(図面の赤い部分)に供給しており、全体の約4割の供給量となっております。

遅場浄水場は、下田地区の奥地にあたる牛野尾から遅場までの約100世帯に対し、供給を続けております。(全体の約0.1割)

三条地域水道用水供給企業団は、栄地区全域と下田地区の遅場浄水場エリア以外(ほぼ全域)、そして三条地区の主に井栗・大崎方面、嵐南の本成寺・吉田方面、須頃方面に供給しており、全体の約6割の供給量となっております。

これら浄水場の水源は、大崎浄水場は五十嵐川の伏流水(川底から3m程度)、遅場浄水場が湧水、企業団は大谷ダムをそれぞれ水源としています。続きまして、三条市で1番古い浄水場である「大崎浄水場」について、少しご紹介させていただきます。

大崎浄水場は、三条市中新に所在し、昭和天皇御大典(ごたいてん)記念事業として昭和5年4月に起工し、昭和8年5月に竣工した水道施設です。五十嵐川沿いに建つ取水ポンプ場で取水し、原水を350m程離れた浄水場へ引いています。浄水場には、主な施設として事務室棟、緩速ろ過池、急速ろ過池、送水ポンプ室、配水池などがあります。浄水場の技術的な設計は、内務省土木局技師、日本大学工学部長を務めた茂庭忠次郎(もにわちゅうじろう)が行っています。建物類の設計は新潟市の長谷川龍雄(はせがわたつお)が行っています。長谷川は文部省技手として旧松本高等学校(国指定重要文化財：松本市)、旧第四銀行住吉町支店(国登録文化財：新潟市)を手がけています。

大崎浄水場の職員が常駐する事務室棟や入り口の門、着水井(ちゃくすいせい)などの建造物12件は、国の登録有形文化財登録基準の「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当し、平成23年10月28日付で、国登録有形文化財(建造物)に登録されました。

緩速ろ過池や配水池などの水道施設の中核をなす建造物は、機能的なデザインとする一方、取水ポンプ場ポンプ室や浄水場事務室棟、などの人の目につく建物には、独創的なデザインが採用されています。創設当初の建造物の全てを良好に保存しつつ、現役で使われている全国的にも貴重な水道施設です。今日に至るまで現役で使われ続けていることは、創設当時における技術の確かさを裏付けています。質の高いこれらの施設は、設計者が明らかな点も特筆され、長く三条市の発展を支えてきた施設として重要です。

三条市で1番多くの水道水を供給している浄水場である、三条地域水道用水供給企業団について、ご紹介させていただきます。企業団は、昭和50年4月、大谷ダム下流域の5市町村(当時の三条市・加茂市・田上町・栄町・下田村)により設立しまし

た。翌年、昭和 51 年 1 月に用水供給事業の厚生大臣認可を受け、その後創設事業として昭和 54 年度に工事着手し、まずは半分の第 1 系列の完成により平成 8 年 4 月から旧三条市、旧栄町、旧下田村、そして加茂市・田上町へ水道水を一部供給開始しました。水需要の低迷により長らく、もう半分の 2 系列目の工事を休止しておりましたが、平成 29 年度から第 2 系列工事を再開し、令和 9 年度の完成を目指して現在進めております。

この写真は、大崎浄水場の裏手の山を切り開き、企業団の調整池（水を一時貯め、調整池から水道水を供給するもの）を建設しております。用地買収を経て、管理用道路を建設し、現在、調整池の躯体工事を進めているところでございます。調整池も令和 9 年度中に完成する予定で進めております。

これらの工事が完了し、令和 10 年度からは、企業団からの受水量が現在の日平均 21,300m³ から 30,000m³ に増量させ、市内に水道水を供給してまいります。それに伴い、大崎浄水場からの供給量は、反対に縮小し、災害時の予備施設という位置付けで、必要最小限の水道水を供給していく予定となっております。右上の写真は、調整池を建設する部分を上空から撮影したものです。

ここからは、水道に関連した全国的に頻発している災害について、少しお話させていただきます。

この写真は、平成 23 年 7 月に発生した記録的な大雨により、笠堀浄水場の前面道路が崩落し、水道管が被災した状況です。



この大雨は、平成 23 年 7 月 27 日から 30 日にかけて、新潟県と福島県会津を中心とした豪雨が続き、三条市の笠堀観測所では、降り始めから 7 月 30 日 13 時までの累計雨量が 1,006mm を観測する記録的な大雨となりました。

この大雨により、笠堀浄水場自体も被害を受けたことから、廃止することを選択しました。廃止に伴い、笠堀地区への水道水は、企業団からの供給に切り替え、現在も企業団から供給を続けております。

この写真は、令和 4 年 8 月 3 日に発生した豪雨災害により被災した村上市に給水支援を行った際の写真です。この豪雨災害は、床上、床下浸水被害の発生、道路・鉄道の寸断、そして水道・ガス・電気等のライフラインの供給停止など、多くの被害が発生しました。水道においては、村上市と関川

村で、浄水場の水没や水管橋の流出等により災害発生から数日間にわたり、最大約 7200 戸が断水しましたが、県内外の市町村



による給水支援が迅速に行われました。三条市においても、日本水道協会から要請を受け、災害発生の翌日から延べ 6 日間、職員延べ 12 人を村上市に派遣し、給水車による給水支援を行ったところでございます。

この写真は、能登半島地震に伴う液状化により甚大な被害が発生した新潟市西区に水道修繕の応援を実施したものです。新潟市の西区においても液状化による水道管の破損等により、最大約 2300 戸の断水が発生し、県内外の市町村による給水支援又は水道管の修理が行われました。とりわけ水道管の修理では、災害発生の翌日から延べ 5 日間、市職員と三条管工事業協同組合がチームを結成し、延べ 21 名を新潟市に派遣し、水道管修理の対応をしたところでございます。

この写真は、同じく能登半島地震により被害を受けた「石川県七尾市」への水道復旧応援に係る出発式を写したものです。日本水道協会から要請を受け、市職員による漏水調査班及び三条管工事業協同組合による漏水修理班のチームを構成し、2 月 10 日から 2 月 15 日までの 6 日間、派遣を行ったものです。市職員による漏水調査班については、三条市のみならず、燕・弥彦総合事務組合水道局と加茂市からも職員を派遣してもらい、計 6 人でチームを構成し応援を行ったものです。

七尾市では、応援の 6 日間において、水道本管 2 か所、個人などの引き込み管 6 か所、計 8 か所の漏水修理を行いました。3 月 25 日時点では、七尾市の水を使用している約 21,000 世帯のうち、8 割の 17,500 世帯の断水が解消したと聞いております。3 月末までには、全ての世帯で断水が解消するよう、引き続き、日本水道協会を始め応援自治体が尽力されております。

今、ご紹介したように、全国各地で地震や水害など、毎年のように被害が起こっております。いっどこで起こるか分からない災害に対し、全国の水道事業者は、日々、地震に強い水道管、いわゆる耐震化に取り組んでおります。我々、三条市でも、安全で安定的な水道水を供給するためにも、限ら



れた財政の中で、水道管路の耐震化を進めております。

人口減少に伴う料金収入の減少や施設・設備の老朽化に伴う更新費用の増大などにより厳しさを増す状況である中、将来に渡り、安全な水を安定供給していくための方策として三条市水道事業ビジョンを平成27年度に策定しました。このビジョンでは、「安全・安心な水道水を次世代へ」を基本理念とし、「安全」「強靱」「持続」それぞれ目指す方向性を示し、健全経営を堅持した計画的な事業経営を進めております。ビジョンには、身の丈に合った、施設の更新(投資)を掲げており、現在は、このビジョンに基づき、計画的な水道管路の更新を進めると同時に、耐震性の有した水道管に入れ替えることで、災害に強い水道施設を図っております。

三条市では、ミネラルウォーターを販売していることをご存じでしょうか。これまで、「千年悠水」の名で親しまれてきたミネラルウォーターが、令和4年度に販売開始から20年となったことを契機に、今後もより多くの方に末永く親しんでもらうよう、令和5年7月にリニューアルしたものでございます。名を「千年悠水」から「山と雪のうるおい」にリニューアルし、ラベルも合わせてリニューアルしました。

このネーミングとデザインは、三条市出身のデザイナー石川竜太さんによるもので、新しい名前は、名峰守門岳の麓の地中に染み込んだ雪が長い歳月を掛けて、清らかに湧き出した自然の恵みへの感謝と敬愛が込められています。パッケージにはこの水を育んだ三条市の下田地域のシンボルである守門岳やひめさゆり、カモシカ、ハヤブサ、キャンプのテントなどがあしらわれています。

リニューアル販売を開始した令和5年7月から令和6年2月までの8か月間の販売本数は約35,000本で、前年同期に比べ15,000本、約76%増加という好調な売れ行きとなっております。チラシに販売店QRコードを載せておりますので是非、飲んでいただければ幸いです。

最後に三条市で取り組んでいる、污水处理、とりわけ「下水道事業」について、お話しさせていただきます。

公共下水道として、三条下水処理センター、栄下水処理センター、下田下水処理センターの3か所の処理センターを各地域毎に整備しております。また、農業集落排水施設としては、旧三条に3か所、旧栄に5か所、旧下田に4か所、それぞれ集落単位に浄化センターを整備し污水处理を行っております。

平成29年2月に、三条市污水处理施設整備構想を策定し、集合処理(公共下水道と農業集落排水施設)で処理する部分と個別処理(合併処理浄化槽)で処理する部分を明確にし、污水处理を進めているところでございます。

しかしながら、令和4年度末の三条市公共下水道普及率は16.7%と県内最下位に位置しており、非常にお恥ずかしい事態となっております。公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽を合計した普及率についても49.3%であり、こちらも県内最下位を位置しております。

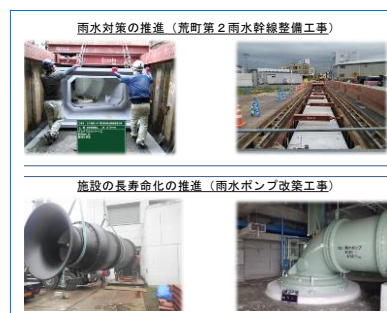
普及率が低い状況としては、三条市は現在、日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故や機能停止を未然に防止する観点から、既に整備済みの污水处理施設の長寿命化(延命)及び市街地の浸水被害の軽減を図る雨水対策を最優先に取り組んでいることから、下水道の普及率は低い状況ではあります。

しかしながら、污水处理の必要性は十分理解していることから、これらの取組に一定の目途が立った段階において、污水整備の推進を図ってまいりたいと考えております。

この写真は、今ほど申しました、最優先に取り組んでいる「雨水対策」と「施設の長寿命化」でございます。上段の写真2枚が、雨水幹線排水路を整備した状況、下段の写真が老朽化した雨水ポンプ施設の更新をした状況です。どちらも、莫大な費用を要することから、雨水対策、施設の長寿命化そして污水整備を優先順位を付けながら、計画的に進めることとしております。

最後になりますが、水道事業、そして下水道事業、双方とも市民生活にとって欠かすことができないライフラインです。我々水道事業は、これまでの先人が守ってきた安全でおいしい水を安定的に供給し続ける責務があります。一方、下水道事業については、雨水対策及び施設の長寿命化を最優先していることで、普及率はかなり低い状況ではありますが、合併処理浄化槽と合わせて、整備を進めることで、三条市の衛生・環境の向上を図ってまいりたいと考えております。

そのためにも、国の補助制度などを注視しながら、優先順位を立て、計画的に整備を進めるとともに、次代まで住み継がれるまちを目指し、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。



4月のお祝い

● 会員誕生日 吉田文彦、金子太一郎、今井克義、米山忠俊

● ご夫人誕生日 柄沢佑子、石川純子、宮川律子、福岡則子

● 結婚記念日 米山忠俊・由貴江、落合益夫・千鶴子、星野義男・雪枝
武田恒夫・水江、安藤 宰・千保 (敬称略)